

津島家寄託

太宰治資料展



「自画像」昭和22年頃

三鷹時代の
太宰治が
いま、ここに

会 期：平成27年6月13日(土)～6月28日(日)

休 館 日：6月15日(月)、6月22日(月)

開館時間：10時～18時

会 場：三鷹市美術ギャラリー 第三展示室

〒180-0013 三鷹市下連雀3-35-1 CORAL 5階

Tel: 0422-79-0033 / Fax: 0422-79-0030

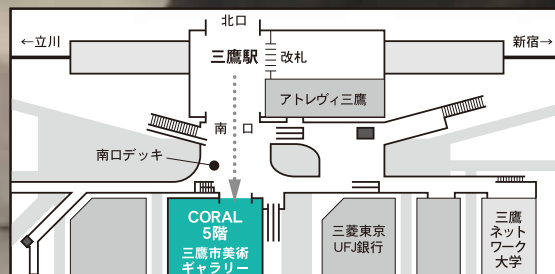
観 覧 料：無料

主 催：三鷹市、(公財)三鷹市芸術文化振興財団

協 力：津島園子、津島里子、林忠彦作品研究室、(公財)日本近代文学館

問合せ先：三鷹市山本有三記念館 〒181-0013 三鷹市下連雀2-12-27

Tel: 0422-42-6233 / Fax: 0422-41-9827



Osamu
Dazai
literature
exhibition

太宰が生きたまち・三鷹

Osamu
Dazai
literature
exhibition

新婚生活を甲府で始めた太宰治(本名:津島修治)は、昭和14(1939)年9月1日に三鷹村下連雀113に転居します。太宰が自ら足を運んで選った、三鷹駅から歩いて約20分の新築借家は六畳、四畳半、三畳の間取りで家賃は24円。太宰は六畳間を書斎にしていました。再起をかけた三鷹の地で「走れメロス」や「東京八景」など現在も読み継がれている数々の名作が生まれ、生涯で手がけた作品の大半を執筆しています。三鷹は作家太宰治が才筆をふるった創作の地であるのはもちろんのこと、津島修治が家庭人として普遍なる幸せを得た地であり、それによって中期以降の作品に明るい灯が点されたのです。

このたび公開する津島家から寄託を受けた総数70点にもおよぶ資料は、通常の文学展でイメージされるものとは特徴が異なります。書や絵画作品をはじめ生活関連書類など、その内容は多岐にわたり、作品研究だけでは知る由のない太宰の知られざる側面を物語っています。自らを〈一箇の原稿生活者〉とした太宰のライフスタイルはいかなるものだったのか……。

太宰の生誕日であり桜桃忌が営まれる6月。津島家に愛蔵され、長い年月を経て里帰りした資料をどうぞご覧ください。



「わが身ひとつの夏にあらねど」 吉岡堅二画 昭和23年
吉岡堅二は『桜桃』の装幀を画き、太宰の自宅にも訪れていた。



三鷹自宅の表札
太宰が自宅に掲げた自作の表札。
「津島修治(太宰治)」と書かれ、家庭人としての一面を見せる。

津島家寄託資料とは

太宰治の没後、美知子夫人が私蔵していた直筆原稿や書簡などの膨大な資料は、日本近代文学館をはじめとする各所へ寄贈されています。このたび津島家から三鷹市に寄託された資料は、美知子夫人の没後に長女園子氏と次女里子氏によって長年にわたって保管されていた三鷹時代のものです。



アドレス帳

作家、出版関係者、知人など太宰の交友関係が垣間見える。

「太宰治資料展」を見た後は…

展示会場から徒歩5分。太宰が通った酒屋伊勢元の跡地に開設された太宰治文学サロン。開催中の企画展示「描かれた三鷹の〈陋屋〉」も併せてご覧ください。また、館内には10時半から16時半までガイドボランティアが常駐し、三鷹駅周辺の太宰ゆかりの足跡をご紹介します(土日祝日は現地へご案内しています。団体でなければ予約不要)。

【三鷹市太宰治文学サロン】三鷹市下連雀3-16-14 グランジャルダン三鷹1階
入場無料
開館時間: 10時～17時半
休館日: 月曜日(月曜が祝日の場合は翌日と翌々日を休館) Tel: 0422-26-9150

展示会場から徒歩12分。作家山本有三が昭和11年から10年間を家族と過ごし、「路傍の石」「米百俵」を著した、三鷹市山本有三記念館。大正末期に建てられた本格的な洋風建築で開催中の企画展「山本有三交友録」をお楽しみください。土日祝日は13時から16時までボランティアが展示や建物の魅力をご案内しています(予約不要)。

【三鷹市山本有三記念館】三鷹市下連雀2-12-27
入館料: 300円(20名以上の団体お一人様200円)
開館時間: 9時半～17時
休館日: 月曜日(月曜が祝日の場合は翌日と翌々日を休館) Tel: 0422-42-6233